

観光と移動から社会を問う

Exploring Society Through Tourism and Mobility



鍋倉 咲希
NABEKURA Saki

講師
Lecturer

専門領域 Areas of expertise

■観光社会学
Tourism Sociology

■Mobilities Studies

主な担当科目 Subjects

- 質的調査法
- 観光と持続可能性
- 観光と文化遺産



研究活動 Research

人・もの・情報・資本の移動やそれをともなう観光現象が、私たちの日常生活や地域社会をどのように変化させるのかについて、社会学の視点から研究しています。とくに、移動を通じて生まれるつながりやコミュニケーションに注目し、現代社会におけるモバイル・ライフのありようを探っています。

① 観光が生む一時的なつながり

東南アジアの日本人向けゲストハウスにおける観光者の交流を例に、旅先で形成される刹那的なつながりの社会的意味を考察してきました。

私たちは旅先のホテルや空港、ツアー、レストラン等で見知らぬ人と出会い交流することがありますが、そのかわりはいわゆる一時的なものです。そうした旅先ならではのコミュニケーションはどのような仕掛けによって可能になり、私たちに何をもたらすのでしょうか。現地での民族誌的調査を通じて、旅先では「別れることがわかっているからこそ社交に没頭できる」という観光者の意識がみえてきました。これは家族や地域社会、学校・会社などの組織でみられる日常での継続的なつながりとは異なる楽しみを私たちにもたらします。こうした観光や身体的移動が作り出す新しい人間関係の形を探っています。

② 恒常的な移動生活者のライフスタイル

ノマドやアドレスホッパーと呼ばれる、ひとつの地域に定住せず移動生活を営む人びとのライフスタイルや地域との関係性に関する研究にも取り組んでいます。彼ら／彼女らは国内外で農業や漁業、観光業に従事して各地を渡り歩いていますが、脱定的な生活の魅力や困難はどのような点にあるのでしょうか。社会学や文化人類学の視点から分析を続けています。

以上のテーマのほか、都心部の再開発にかかわる都市空間の変容と文化の問題に関する社会学的研究（ショッピングモール論や東京都・池袋における都市生活者の実践など）にも取り組んでいます。

ゼミ活動 Education

ゼミでは観光や移動が私たちの日常生活に与える影響について、観光社会学の視点と方法から考えています。社会学は慣れ親しんだものに対して違和感をもつことから始まります。ふだんの生活の「当たり前」を、ゼミを通じて問い直してみましよう。3年次には観光社会学・社会学に関する文献の輪読を通じた基礎的知識の習得と、それを応用したフィールドワークを実施しています（関西圏での日帰り調査や東南アジアでの合宿など）。4年次には卒業論文に向けた個人研究に取り組みます。

ゼミでの研究は担当者が関心を抱いている、移動とつながり、ライフスタイル移住、現代アート、文化遺産などはもちろん、幅広いテーマに取り組むことができます（過去の卒論テーマの例：「ゲストハウスにおけるヘルパーの役割」「キオスクの歴史と箱的空間のあり方」「渡韓美容医療／整形における選択と工夫」など）。



ゼミでのフィールドワークの様子(東京都・下北沢)



担当者の調査地であるカンボジアにて、世界文化遺産アンコールワットを撮影する観光客